

2022年度 保育所・保育士の自己評価

まつやま大手町保育所
評価責任者 園長 岡田 真由美

「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」と保育指針に明記されています。この事を踏まえ、まつやま大手町保育所ではこれに基づき検討し、保育の質の向上を図る為、保育所及び保育士の自己評価を実施しました。

今後はこの結果を踏まえ、次年度の保育計画・保育内容等の改善に活かし、改善していく事で、保育所の専門性・組織力を高め、保護者の皆様や 地域の皆様との信頼関係がより良く深まるよう努めてまいります。

2022年度、保育所及び職員の自己評価についてご報告いたします。総合評価は最後に記載しています。職員が1年間を振り返り、評価をする事で新たな課題を見つけ、園の運営や経営に役立てればと考えております。引き続き、来年度も職員一同、心を1つにして未来ある子ども達のために笑顔あふれる保育に努めてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願ひします。

まつやま大手町保育所の自己評価

【評価の基準】

- A 大変良くできている
- B できている
- C 概ねできているが、今後に向けて改善する余地がある
- D できていない、要改善

項目	評価内容	評価			
		A	B	C	D
に保育 ついで 目標	① 保育方針・保育目標は職員間で共通理解を図っている。	○			
	② 保育方針・保育目標が活かされるような保育内容を考えている。	○			
	③ 目標は前年度の反省を活かしている。	○			

○評価の根拠●改善策

○保育所保育指針に基づき、全体的な計画・年間指導計画・月案・週案・日案を作成している。
○主任保育士を中心として、年間の「環境」を通して、その年齢ごとの子供の育ちを把握し、個々の子供たちに寄り添える保育の計画・実施に努める事ができた。フォローが必要な所は気が付いた職員でリカバーし、目標が活かされるような保育に向けて全員で取り組めたと思う。
○日々の保育について保育士全体での共通理解を深めるため勉強会などを週1回で実施し、日々の活動を通して、底やかな成長を必要とする子ども達のあるべき姿にむけて、考える時間を設ける事ができた。
●それを実践して、今後に反映できなかったという点に関しては、個々で課題も多くあった。月齢に見合った成長発達の段階をしっかりと把握し、見合った保育ができているかどうか、考え方の乖離がないよう、引き続き、勉強会や個々の面談を根気よく実施していく。

項目	評価内容	評価			
		A	B	C	D
保育 内容 について	① 計画指導は乳幼児の実態に配慮して作成している。		○		
	② 保育所保育指針に基づく援助・支援を適切に行っているか。	○			
	③ 子どもの意欲を高めるような遊びの準備や配慮ができ、見通しを持ちながら進めているか。	○			
	④ 環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫しているか。	○			
	⑤ 素材・用具を適切に活用しているか。	○			
	⑥ 園内研修や評価結果を基に保育の改善に努めている。	○			

○評価の根拠●改善策

○今年度の課題とした「環境」については、1年を通して、人的環境・物的環境・自然環境・社会的環境について考え取り組んできた。環境を通して保育を考えるという意識と時間が持てたのは良かったと思う。
○新型コロナウイルス感染症の影響で制限された事もあったが、それでも園でできることはないかと職員全員が考え、新しいイベントや保育にさらに取り組めた。
●考えた環境を用意するだけでなく、提供した環境を子ども達と一緒にどう使っていくのか考えるという点では、各保育士ごとに課題が残った内容となった。全体でリカバーしていくチームとしての保育も大事だが、保育士個々のスキルの向上や意識の底上げがまだまだ必要である。成長発達経過表や成長曲線をもっと見て、今の子ども達に何が足りなくて、健やかな成長発達にはどういう保育の提供をしていく必要があるのかを常に考えていってみたいと思う。

項目	評価内容	評価			
		A	B	C	D
食育について	① 食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせ、食育計画を立て、実践している。		○		
	② 旬の食材や行事食を取り入れ、様々な食材に触れ、味わえるようにしている。	○			
	③ 評価結果を元に食育の改善に努めている。	○			

○評価の根拠●改善策

○新たな試みとして、園外での芋ほりやすいか割り体験が苗植えから世話をしながら収穫まで、トラクターの試乗やスイカを冷やす氷の購入等、様々な体験を経ての食育が行えたのは良かった。
 ○季節や献立に合わせて、様々な食育イベントを企画実施(食材買い出し、屋外遊戯場での給食、ホットプレートでの手作りおやつ提供等)しており、子供たちの食への意欲につなげる事ができた。
 ●例年に比べ、屋外遊戯場でのプランター季節の野菜栽培が少なかった。

項目	評価内容	評価			
		A	B	C	D
保育・行事について	① 1日の流れ(デイリープログラム等)は現行で良いか。	○			
	② 乳幼児の活動範囲を明確にし、自主的・実践的な活動にしている。	○			
	③ 行事のねらいや実施回数などの内容を検討し、改善に努めている。 新型コロナウイルス感染拡大の影響で制限のある活動となったが、制限下の中でもできる事を考え活動できたか?	○			
	④ 計画・実施・評価・改善の体制をとっている。		○		
	⑤ 保護者の願いや意見を取り入れている。	○			

○評価の根拠●改善策

○季節時の行事や公開保育イベント(月1回程度実施している公開保育も含む)は、内容が一部制限されたものもあったが、6月以降月1回ペースで一子する事ができた。
 ○保育所のブログを毎日更新したり、動画をHPで閲覧できるようにする事で子ども達の日頃の様子を伝える事ができた。
 ○勉強会では、保育に関しての振り返りの習慣は身に付きつつある。保育士全体のスキルの底上げが図れた。
 ●勉強会後の次の課題を見つけてPDCAサイクルの「実践→改善」の取り組みに関しては引き続き意識改善が必要。
 ●行事(イベント)のLDによって、段取りや調整ができず、他の職員がフォローする事が多かった。

項目	評価内容	評価			
		A	B	C	D
組織・運営	① 職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく施設の運営に携わっているか。	○			
	② 職員間の連携がとれ、報告・連絡・相談等ができ、協働できる体制になっている。	○			
	③ 係や仕事の分担・割り当ては適切か。			○	
	④ 職員の意見を聞いたり、話し合う場を定期的に持っているか。	○			
	⑤ 打ち合わせ回数・時間・内容は適切か。	○			
	⑥ 年齢別目標は、保育目標や乳幼児の実態に即して設定しているか。		○		
	⑦ 意義や趣旨を理解したチーム保育を行っているか。	○			
	⑧ 同年齢及び異年齢児間の効果的な活動の充実を図っているか。	○			
	⑨ 評価・資料(記録)を集積しているか。	○			

○評価の根拠●改善策

○各担当年齢の今の状況や今後の保育についての見通しなどを職員会・週1回ペースの勉強会で話し合いをコンスタントに実施する事で、職員全体が同じ意識を持って保育に取り組めるようになった。
 ○今年度の勉強会は日々の保育の振り返りだけでなく、今抱える保育の課題を全体で考えられるよう、具体的事例を深掘りしたり、ドキュメンテーションにしたり、動画にしたりと様々な研修ツールで行えた。
 ○週案・個人別にシートを修正し、2022年度から運用し、概ね振り返る際に分かりやすいと好評だ。全員が保育を共有でき、自身が振り返る時に役立つ書類に改善されたのは良かった。
 ●組織として円滑に運用できる最低限のルール徹底と強化を図っていく。全体でリカバーし、結果、運営的には問題がなかったものの、役割や采配に関しては職員に負荷がかからないよう再検討し、スキルの向上が必要な保育士には都度個別指導を引き続き行っていく。

項目	評価内容	評価			
		A	B	C	D
保健・安全指導	① 危機管理意識を持ち、緊急時の対応できる体制・マニュアルの作成、保健対策を講じているか。	○			
	② 避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか。			○	
	③ 保育士・調理員が連携し、アレルギー児や提供方法等に対応する環境・体制にあるか。	○			
	④ 健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っているか。	○			
	⑤ 乳幼児の安全のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか。	○			

○評価の根拠●改善策

○感染症・アレルギー・事故防止及び発生時のマニュアル・交通安全指導・避難訓練の年間計画を作成。それを基に対策・訓練の実施。
 ○アレルギー児の把握(2021年度は対象児なし)。食器の個別化徹底。除去食メニューを作成(松山市公立保育所メニュー)している。
 ○年2回の健康診断と、毎月の身体測定を実施。
 ○新型コロナウイルス感染で園児に出た際及び濃厚接触者に該当となった場合には、安全確保の為、園でできる事(園消毒作業、関係機関や保護者との連絡・保育所の運用についての周知)は円滑にできた。
 ●訓練内容を見直し、安全訓練計画(非常災害・生活安全・危機管理の3点)を立てる事はできたが、実施日にできず、別日になる等のスケジュール通りにできなかった。

項目	評価内容	評価			
		A	B	C	D
園内外研究・研修	① 研修・研究は保育目標の具体化につながるものであるか。	○			
	② 所内研修の計画・運営は適切か。	○			
	③ 研究・研修の成果を日常保育に活かし、乳幼児の育ちに反映できているか。	○			
	④ 各種研究会・研修会・講習会等への参加体制ができているか。	○			
	⑤ 各種研修会・講習会等での内容を所内に報告・還元しているか。	○			

○評価の根拠●改善策

○新型コロナウイルス感染拡大の為、多くの研修が中止・延期となったが、園内研修の充実化を図る事ができた。週1回ペースで継続的に実施。
 ○今年度から途中採用の職員が3名増えたが、積極的に研修・講習会に参加してもらったり、園内研修の内容を共有したりして、保育の質の向上及び自己研鑽に努めてもらえるよう配慮した。

項目	評価内容	評価			
		A	B	C	D
園内情報	① 乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っているか。	○			
	② 公文書收受・発送・処理を適切に行っているか。	○			
	③ 各帳簿は、適切な方法で作成・処理しているか。	○			

○評価の根拠●改善策

○子どもの情報等は、守秘義務とプライバシー保護の観点で職員会等で全員(参加できないパート保育士は個々に)に周知し、個人情報に関する書類等は鍵付の棚で保管する等の配慮をしている。

項目	評価内容	評価			
		A	B	C	D
施設・設備	① 施設内外・設備の安全点検を計画的に行っているか。	○			
	② 遊具・用具等を活用しやすいように整理・保管されているか。	○			
	③ 掲示板・掲示場所を適切かつ効果的に活用しているか。	○			

○評価の根拠●改善策

○遊具や玩具の点検(チェックシートの作成)や消毒を行い、整理整頓を定期的実施している。
 ○感染症の流行の進捗状況や保護者へのお願い等の掲示は口頭以外での周知に役立っている。

項目		評価内容	評価			
			A	B	C	D
園外 交流・ 情報	①	積極的に地域の文化や生活に触れ、地域との関係が適切に保たれている。	○			
	②	乳幼児の興味や関心に基づいて地域社会・その他の施設と交流しているか。		○		
	③	事業所職員の保育体験及び保育施設見学会を受け入れる時は、その目的や目的や意義を理解・確認しているか。	○			
	④	保育所から各種便りを定期的に発信しているか。	○			
	⑤	保護者などから問い合わせがあった場合に、自園または地域の子育て資源に関する情報を提供しているか。	○			
	⑥	医療機関・児童相談所等の専門機関及び提携園について保護者にとって必要な情報を提供しているか。	○			
○評価の根拠●改善策						
<p>○新型コロナウイルスの感染拡大は増減はあったものの、昨年よりは、地域への商店街等の買い物に出かけたり、公共機関を使つての園外保育も実施したりして、交流を積極的に多く持った年となった。特に、畑を提供した職員の地域の方々の協力で本格的な芋ほりの経験ができた事は良かった。</p> <p>○事業所内保育所である利点を生かして、3密を避け、ソーシャルディスタンスに考慮したイベントを実施できた。(社員と子ども達によるオープンスタジオ前の花壇作り、七夕の笹飾り作り・CATVチャンネルの保育の味方に一部出演・Xmas会での劇・もちつき・等)また、事業所である愛媛CATVの社員研修の一環に保育所体験(2021年度は2名別日に実施)を行ったり、他企業・学生からの保育所見学会を会社説明会時に見学したり、WEB撮影にて受け入れている。</p> <p>○毎日、ホームページにて園生活を公開し、より多くの人知ってもらえるように具体的に園での様子を見てもらえるよう、オープンにしている。</p> <p>○松山市・保育幼稚園課からの周知事項や園だより等の各種たよりを定期的に保育所側から発信している。</p> <p>○保護者からの要望があれば、関係機関と連絡し、情報を提供する事ができる。</p> <p>○園児が新型コロナウイルスに感染しては、保育所での感染対策や保護者の片の理解と協力によって臨時休園にはならなかった。また、関係者で新型コロナ感染が分かった際は、保護者・市・保健所との連携や情報共有も迅速に、かつ滞りなく行えた。</p>						
項目		評価内容	評価			
			A	B	C	D
評外 評価部	①	地域や保護者の意見を施設運営に反映しているか。	○			
	②	苦情解決の体制づくりはできているか。	○			
○評価の根拠●改善策						
<p>○保護者アンケートを実施し、改善の努力をしている。</p> <p>※当園では第三者評価は導入していません。</p>						

まつやま大手町保育所の保育士の自己評価

【評価】

- A おおむね達成できている
- B 達成に向けて取り組んでいるが、まだ課題が残る
- C できていない

【回答者】

保育士8名

項目	業務内容	評価内容		
		A	B	C
保育について	① 園の保育方針を理解して実践しようと努めている。 ※クラス担任の保育士は園の保育方針を理解して、各年間保育計画・月週案の内容や目標等を立て保育に従事できたか。 ※クラス担任でない保育士はクラス担任(常勤)の保育実践が円滑にできるように努めたか。	5 /8	3 /8	0 /8
	② 子どもの姿を的確に捉え、保育に必要な記録資料などの作成と活用を効果的に行っているか。 ※クラス担任でない保育士は、各クラス担任の上記内容ができるよう、協力できたか。	5 /8	3 /8	0 /8
	③ 子どもの成長発達について理解と認識を持ち、個々に応じた適切な対応ができていますか。	3 /8	5 /8	0 /8
	④ 計画立案に基づいた保育、クラス運営をしているか。 ※クラス担任でない保育士は担任保育士や全体を見てフォローができるよう意識しているか。	6 /8	2 /8	0 /8
	⑤ 日々の反省を活かした計画立案や保育実践がなされているか。 ※クラス担任でない保育士は、毎月の保育反省の提出をしているか。	7 /8	1 /8	0 /8
	⑥ 子ども一人ひとりの目標と課題を明確にし、見通しを持ってかかわっているか。 ※クラス担任でない保育士は担任保育士が上記保育ができるよう情報の共有やフォローができていますか。	5 /8	3 /8	0 /8
	⑦ 子どもの発達を促すための環境作りやかかわりを心がけているか。	6 /8	2 /8	0 /8
	⑧ 子どもの姿を見ながら、臨機応変・計画的に環境作りや援助を行っているか。	5 /8	3 /8	0 /8
	⑨ 玩具や遊具の安全確認・消毒及び掃除・整理整頓に努めているか。	6 /8	2 /8	0 /8
	⑩ 子ども達の手本となるような言葉づかいや立ち居振る舞いを心がけているか。	7 /8	1 /8	0 /8
安全管理	① 保育中の子どもへの配慮(かみつき・危険な行動等)	3 /8	5 /8	0 /8
	② 園外保育における人数確認及び安全確認ができていますか。	8 /8	0 /8	0 /8
	③ 園児の状態を指針・問診できていますか。(表情・怪我・体調等)	7 /8	1 /8	0 /8
	④ 遊具・備品等の及び安全確認・感染対策	7 /8	1 /8	0 /8
接遇・保護者対応	① 好感の持てる態度で保護者や見学者・来客等に明るく丁寧な対応ができていますか。	8 /8	0 /8	0 /8
	② 保護者等の話をよく聞くなど、コミュニケーションをとり、安心して相談できる関係作りに努力しているか。	7 /8	1 /8	0 /8
	③ 保護者に対し、子どもの様子を分かりやすく伝えているか。(おたよりノート記入も含む)	7 /8	1 /8	0 /8
	④ 必要な情報を収集し、自分の実践に活かしているか。	3 /8	5 /8	0 /8
職務	① 上司や先輩の指導・助言を受け入れ、実践しているか。	6 /8	2 /8	0 /8
	② 組織の規則や手続き、職場のルールを守って職務に取り組んでいるか。	7 /8	1 /8	0 /8
	③ 服装や身だしなみを整え、丁寧に礼儀正しい対応をしているか。	8 /8	0 /8	0 /8
	④ 職員間の必要な連絡・連携・報告はとれているか。	6 /8	2 /8	0 /8
	⑤ 与えられた仕事(日常・行事・雑用等)はきちんとできているか(正確さ・提出期限)。	6 /8	2 /8	0 /8
	⑥ 組織の一員である事を自覚し、周りの仕事にも自主的に協力しているか。	6 /8	2 /8	0 /8
	⑦ 自己の体調を管理し、他の職員に迷惑がかからないよう努めているか。	7 /8	1 /8	0 /8
	⑧ 職務上、知り得た情報の守秘義務の遵守し、子どもの人権に留意しているか。	8 /8	0 /8	0 /8
その他	① 問題意識を持ち、専門書を読んだり情報を収集したりして、自己の保育力の向上に努めているか。	6 /8	2 /8	0 /8
	② 積極的に研修や講習に参加する等、保育について何らかの自己啓発(自己研鑽)に取り組んでいるか。	5 /8	3 /8	0 /8
	③ 新しい仕事や困難な仕事にも、失敗を恐れず、前向きに取り組んでいるか。	5 /8	3 /8	0 /8

総合評価(保育士コメント抜粋)

- チェック項目で「B」になった項目に対しては、子どもの成長・発達に関しては、今後経験を積んでさらに知識を深める事ができるようにしたい。また、個々にある子ども達の課題に対して自身のかかわりが良かったかどうかと悩んだ時は、具体的な関わり方やアプローチ方法を聞く等して、より適切なかかわりがとれるようにしたいと思う。
- 勤務時間外でもゆとりがある時に、自宅で自己啓発に取り組む事ができればと思う。
- 12月後半からの勤務で1月前半までは、各クラスの保育の流れや1日の過ごし方、保育所内外の片付けや掃除、フリーとしての動きを覚える事を中心に努めた。保育に関しては、各クラスがどのような各クラスがどのような設定で遊んでいるか、どんな目標を持って活動をしているのかを見て、子ども達と関わったが、読み切れていない時や担任の「ねらい通りの補助ができていない時があった為、反省を活かして来年度に繋げていきたい。
- 勉強会では、子ども達の様子や今後の予定、どのように関わっていくかを共有し合う事で統一したかかわりを行えている。
- 新しいことに取り組む時の姿勢として、ついつい失敗を恐れてしまう。年齢のせいにはせず、挑戦する姿勢を忘れないでいたい。
- 行事では、発表会、もちつき、節分を経験する事ができた。行事までの準備や子ども達とのかかわり方等を学ぶ事ができた。来年度の行事で学んだ事を活かし、子ども達が楽しく行事を行えるよう臨機応変に動いていけるようにしたい。
- 働きはじめて、これまでに経験のなかった保育(行事やイベントも様々なアプローチ方法で遊びの中から興味や関心を引き出したり、気持ちを高めながら当日を迎える流れ)
- 人権擁護の為のセルフチェックをして改めて感じるが、この保育所の目指している保育理念に則って、「子供を尊重する保育」をしているから、自分自身のチェックが、良い関わりが増えたといえると思う。
- 半年が経ち、いくつかの大きな行事があり、当日までの保育を通しての行事の関わり方が、分かり始めて来たが、補助が足りてない場面があったので、担任が考えている課題や目標を聞き取り、関わっていけるように今後努力していきたい。
- 特に臨機応変な環境づくりや援助に関して、行動力・発想力が発揮できていなかったと思うので、柔軟に子ども達が楽しくなるようにかかわりたいと思う。
- アドバイスいただいた事をしっかりと実行できなかった事もあった。期日を守ったり、当たり前の事をやっていきたい。
- 子ども達一人ひとりの個性を大切にしながら保育を行っていった。
- 子ども達が興味のある事、好きな事から遊びを広げていけるようになればもっと良い保育ができると思う。そのためには、テレビや書籍等、色々な所に自分自身が興味を持って吸収できるような余裕を持ちたい。
- 今年から月案(月単位での保育のねらいや目標を考える書類)等の書類の書式が変更となり、特に週案(1週間の保育のねらいや目標、遊びの展開を記載)は、イラスト等も用いて書くようになった事で、後で見返す時に自分自身も見やすく、次の活動計画を立てやすくなった。引き続き見やすい書類が作れるようにしていきたいと思う。
- 昨年度から、色々な手作り玩具を提供しているが、使う素材が適していなかったり、すぐに壊れてしまったりという事があった為、子どもの興味や発達に合わせたものという事を大事にしつつ、丈夫で安全に楽しく遊べる玩具作りを意識した。また、作って終わりではなく、子どもが興味を持てるよう声をかけながら一緒に夢中になって遊べたので良かったように思う。
- 今年度も様々なイベントでリーダーを務めた。昨年反省した事を活かしつつ、スムーズに進めていけるよう心掛ける事ができていたのではないと思う。また、昨年と同じ流れにするのではなく、何か新しい要素を取り入れてられないかと自分なりに考えてみるようにした。しかし、その考えを上手く活かしてなかった部分もあったので、まずは、やってみるともっとできるようにしたい。
- 怪我やトラブルについては、今後も気を付けた所で、特に合同保育の時などは、全体を見つつ、他保育士と連携して未然に防げるようにしたい。
- イヤイヤ期にさしかかるこの時期の1歳児に関しては、一人ひとりが自己主張を発揮し始め、自分の思い通りにならない事を言葉や行動で園力で表してくる。その思いをしっかりと受け止めながら気持ちを落ち着かせたり、子ども達が自分で気持ちを切り替えられるよう手助けをしたりしていった。
- 友達同士のトラブルも多くあり、それも成長の1つとして見守っていった。保育士がトラブルが起きないように事前に止めてしまうのではなく、トラブルの中で子ども達が自分の思いを出せるような援助も心掛けた。しかし、引っ掻き頭を咄嗟に止められなかった部分もあり反省する。
- 個の世界から友達の世界へと少しずつ移行していく中、保育士や友達と一緒にイメージをしていきながら遊べる環境の提供も心掛けていった。それにより、子ども達は、友達と同じ世界観の中で見立て・ごっこ遊びを楽しむ事ができ、言葉でのコミュニケーションも増えていった。
- 毎日の活動の中で、何かしら子ども達が発見できる、楽しめる、輝けるという保育を実践するよ努められたと思う。
- 園全体の子どもの育ちを把握し、適切なかかわりができるよう、勉強会等を通して保育士間で共有する事で保育に関して同じ方向で保育の提供ができた。
- 勉強会では、保育の中で課題だと感じる部分をリアルタイムに学んだり、皆で考えたりできるような内容となった。それが、実践の保育にも少しずつ反映されていったのではないと思う。
- パート勤務の為、ブログや保育日誌・週案問うで前日にあった事を理解し、朝の保護者対応を行えた。
- 勉強会での研修は翌日は実践し、少しでもスキルをあげられるよう心がけているが、単発で終わらないよう、常に意識を持ち、継続して取り組んでいきたい。
- 活動の中で担任保育士に相談しながら、遊びに必要なものの製作や提供を行えた。

【総合評価】

1. 園全体の評価

開園6年目にあたる今年度は、昨年に引き続き、ウィズコロナの流れとなり、制限されていた公開保育は感染対策を行いな
がらの再開、公共機関を使つての園外保育も感染状況によっては、昨年に比べると、多く実施できた年となりました。

コロナ感染前のようにはいきませんが、新たな保育への取り組みも継続して行えたと思っています。
今年の課題である『環境』については、主任保育士を中心に、様々な環境作り(人的環境・物的環境・自然環境・社会的環境
など)に対して日々の勉強会などで話し合いながら取り組んでいった。

以下、赤字部分は課題について取り組んできた主任保育士のコメントです。

人的環境においては、保育士が身近な大人として子ども達の遊び・言葉・発想への意欲が生まれるような援助や言葉がけ
ができるのか考察していった。大人の存在が子ども達の育ちに与える影響は大きい、この点においては来年度も引き続き取
り組んでいかなければいけないと感じる。

物的・自然環境においては、その時々の子どもの興味や遊びの様子を見ながら遊び環境を提供していった。季節行事
に関しても、ただ行事をこなすだけでなく、そこに至るまでの遊び環境を提供してつながりのある保育ができたのは良かった。
しかし、ただ環境を用意するだけでなく、提供した環境を子ども達と一緒にどう使っていくのかは、各保育士ごとに課題が
残った。来年も引き続き環境については勉強会を通して職員間で意見交換を行っていきたい。

自園での大きな特徴である園外での活動も積極的に取り入れ、いろいろな人たちとのふれあいなども意識していった。これ
により子ども達が社交的・積極的に人とコミュニケーションを取ろうとする姿見られるようになった。引き続き保育所の中だけ
では体験できないことを子ども達に提供していきたいと思う。

次に、毎年実施している保護者アンケートでは、2022年度は、オールAと評価していただきました。この評価につながった
のも、日頃の保護者の皆様のご理解とご協力があったの事だと思っています。ただし、乳児期の引っ掻きや噛みつき等のトラ
ブルが続いた時期があり、その時は不安だったという指摘をいただきました。この点に関しては、保護者アンケートにも回答さ
せていただきましたが、保育所で起こった事故や怪我は全て保育所側の責任です。これからも継続して、この時期特有の噛
みつきや引っ掻きのトラブルが増える時期には、子ども達の気持ちに寄り添いつつ、保育士が瞬時に入り込み防げるよう、職
員間で常に意識を持って保育していきます。

2. 来年度の課題

0・1・2歳児という年齢は、誕生付が数カ月違うだけで、成長や発達に大きな差が見られる時期でもあります。0歳児という
学年に着目するだけでなく、月齢(〇歳〇カ月)に合わせた育ちや、子供の発達の援助をしっかりと考えていきたいと考えてい
ます。

3. 最後に

2023年度の4月は、職員のメンバー変わらずで、1歳児4名・2歳児4名の計8名スタートとなります。0歳児は途中入所で
2〜3名まで受入予定です。定員10名と小規模な保育所であるからこそ、家庭的できめ細やかな配慮とその時々に応じた臨
機応変で柔軟な保育が提供できると自負しています。

今の現状に満足する事なく、引き続き保護者の要望や希望を聞く機会を多く設け、保育理念にもある子ども達にとっては「豊
かに生きる力」が育つよう、様々な経験ができる保育所に…。保護者の皆様にとっては「安心して預けられる保育所」となるよ
う、さらなる努力をしてまいります。

子ども達・保護者の皆様・職員・地域の方々の皆が笑顔になれるような保育所になるよう、これからも職員一同精進してまいり
ます。